

テーマ「子どもたちは輝いている」

日時：9月11日（日）

テーマ： 子どもたちを輝かせるために

場所：南山小講堂

対象：模試受験児童の保護者

◆講演1／責任者 森浩晃

生まれ持つエネルギーをより輝かせるのは環境

人間は動物界では変わった存在です。他の動物は母親のお腹の中で色々なことができるまで成長して生まれて来るのに対し、人間は生まれてから学んでいきます。それは学んでいく量がとても多いから。そして、人間は色々な能力を授かっています。その大元が生命エネルギー。生後8カ月の赤ちゃんを抱くと、子どもがなかなか授からなかった人に授かることが多いとも言われます。赤ちゃんの時の、無垢の光輝くエネルギーは素晴らしいものです。そのエネルギーは、環境によってさらに輝かせられ、逆に萎ませることもあります。幼稚園から帰って来た時、光が萎んでいるなどと思ったら、きつく抱いてあげてください。言葉がなくても通じ合えます。朝はどんなに忙しくても、ニコッと笑ってあげてください。その日最初の笑顔を見せる。そうすると子どもは元気になります。

子どもたちを光り輝かせることが、私たち教育に携わる者の使命です。ジェイサチの教室では、子どもたちはいつもニコニコとしています。「何点欲しい？」と聞くと、「百万点」「一億点!」。花丸をつけてあげる時、直径3ミリの花丸をいっぱいつけたら、本当に嬉しそうにします。とにかく楽しんでいきます。

情感が豊かな子ほど学力が上がっていく

見聞きした情報は頭の後ろに集り、それから側頭葉の記憶や情感を司る部分を通して前頭葉にいきます。つながっていますから、情緒が豊かな子は学力が上がっていきます。たとえば花を見て、ちょっとした違いを見つけて「きれいだね」と言ってあげてください。すると「きれい」と感じる脳の部分が発達します。面白い、楽しい、もっとやりたいと思うことで、学力は上がっていきます。勉強が好きな子、出来る子は遊びと勉強を分けていません。ジェイ・サチに来て下さったお子さんには全員そうあってほしい。勉強が楽しいと思い、算数・数学が得意科目になってほしいというのが根底にあります。算数・数学にも情感が大切です。あるレベルまでは誰でもいきますが、さらに難しい問題は豊かな心がないと解けないのです。著名な数学者の岡潔さんがヨーロッパで研究を終えて帰国した時の第一声は「これからは古典を学びます」というものでした。

情感を豊かにする。その結果として算数・数学も得意になっていき、他の科目もできるようになっていきます。保護者の方の中にはたくさん本を読んでおられ、美術や音楽にも造形が深く、一般教養と言われるものを沢山身に付けていらっしゃると思います。余談ですが、音楽はできればレコード盤のアナログ録音・再生の方が良いです。周波数に制限のないアナログ音を聴いて育った子と、人間の耳には聞こえないとされる情報量を少なくしたデジタル音を聴いて育った子では大きな差がつかます。

人間には五感以外のものも感じ取れる能力が備わっており、普通の人には見えないものが見える子もたくさんいます。これも否定してはいけません。そんな能力を授かるのは一部人々ですが、訓練で感じ取れるようになれます。五感以上の能力も伸ばしていただきたいと思います。

日本人は周りを気にしますが、気にし過ぎないようにしてください。一般大衆が正しいとは限りません。お子さんたちに、自分を持ち、将来大人になった時にしっかり食べていけ、豊かであり、周りの人を幸せにできるような人間になってほしいと思います。そのためにご両親もいつも笑顔で、自信を持っていてください。

◆講演2 / 責任者 森幸子

今回の模試は、東京の名門小学校、それから南山、椛山などの問題を分析して作りました。南山小は内部進学が非常に難しくなっています。色々条件が出ています。自学ノートで好きな勉強をする時も、熱心な子どもたちにはさらに先生が問題を出します。問題を解いている時に途中でストップしたままだと「この後どうしますか？」というピシッとした叱責交じりの指導になります。そんな入学後のことも考えて模試を作成しています。

また、模試中、先生には落ち着いた声で話してくださいとお願いしています。大きな声は言語習得によくないので、もしご家庭で大きな声を出していたら、今すぐにやめてください。

何に困るのか、困ったと言えるのか

今、粘土の時間に入りましたが、困っている子が何人かいました。隣の子に分からないようにブロックされています。渡された小麦粘土は、10色のスティックが紙で包んでありますが、「紙を取って粘土を出して下さい」という指示がないから、手を出せずにじっと見えています。

思いついたのは実際の声からです。ジェイサチに通ってきてくれている南山小の子たちに、一番困ることは何かを聞きました。南山小はランチで5、6年生が1年生のお世話をするので、その時にヨーグルトの蓋を開けられない子がいるのが困ると言います。そこ

から今日は、粘土を包んだままで出しました。また、その粘土を使って夏野菜を 3 個以上作ってくださいというのが課題で、以上ですから 3 個でも 5 個でも 6 個でもいいわけです。こういった日本語、あるいは量感といったものがわからない子がたくさんいます。たとえば「3 ミリで花丸を描きました」と日常の言語で子どもたちに言っていれば 3 ミリがどれぐらいかが自ずとわかっていきます。

できた、できないではなく、どこで困ったのかを見ます。そして「どうしても困って、手伝ってほしい人は左手を上げてください」と言いました。右手を挙げた人には先生は近寄りません。左手を挙げた人には、「開けられません」と言えばお手伝いします。でも言わないと作れません。さらに減点になります。

南山小の試験では、男の子は減点法、女の子は加点法になっていますが、今回は減点法と加点法を織り交ぜています。

いざという時に現れる、心の育ち方

環境を見抜くのは、おやつタイムです。今日は米粉のクッキー2 種類、オーガニックのポテトチップ、そして、ダミーでチョコレートが入っています。課題は「ポテトチップとクッキー2 枚をナプキンにのせて運んでください」。以前の南山小の受験でそうしていたことから、ダミーを入れました。お水は、南山小はピッチャーのお水をコップに入れるという指示が出ますが、それは常日頃練習しているので、今日は 500ml ボトルを用意し、4~5 人に同じ分量だけ分けます。また、いつもはガラスのコップを用意しますが、今日はプラスチックにしました。プラスチックは軽いので、左手をきちんと添えないといけません。最後はゴミの分別。これは青山や慶応、早稲田ではよく出ます。南山では今まで出ていませんが、この 2~3 年はゴミの分別や防災に力を入れていますので、しっかり教えていく必要があると思います。

昨年の男の子は、和室で折り紙の課題ができました。折り紙は図形感覚が養われるからです。論理的に問題を見ていくと、やはりひとつ筋が通ったものがあります。

かつて畳の部屋を掃くという課題がありました。5 人グループに塵取りがひとつ、箒が 3 本、1 人は何も無いという状況でしたジェイサチから受験した子にどうしたのかを聞いたら、「困って、手で塵取りの役割をしました」。抱きしめてあげました。「よく気づいたね」と。当時の倍率は 5 倍。彼女は見事合格しました。これは教えてできるものではありません。心の育ち方です。

子どもたちが発言するのを遮らないでください。全部聞いてからヒントを与えてください。答を先に言わないでください。この 8 年、南山小、梶山、慶応幼稚舎等々の受験を見守ってきて、気づいたことです。